日本産Monographis屬の1新種

Eine neue Art von Monographis aus Japan

von Yasunori Miyosi

三　好　保　德

愛媛縣八幡濱高等女學校

敗戰後間もない昭和20年9月22日蒲生重男氏は江ノ島でMonographis屬の1種を發見せられ、東京文理科大學講師高島春雄氏はそれにハイボクフサヤスデの和名を提唱された。その後沼津附近或は千葉縣下でも同種と思はれるものが發見された。筆者も昭和21年7月20日愛媛縣西宇和郡三瓶町客（キヤク）の山麓雜木林中で同屬のものを多數とり以來採集をつづけ且飼育觀察をもつづけてゐたところへ高島春雄氏のおとりなしによつて同年10月30日蒲生重男氏は江ノ島產の生きた標品を多數筆者へ送つて下さつたのでここに東西產物の比較觀察を果す幸運にめぐまれることになつた。その結果日本產のこれ等が同じ1新種をなすとの結論に達したのでここでそれを發表する。筆者のこの仕事を常に御指導下さつた恩師高桑良興博士及び高島春雄學士と標品をおめぐみ下さつた蒲生重男氏とに深い感謝を捧げる。

Monographis 屬の瞥見

本屬の動物は現在までに3種が記載されてゐる。その1はジヤワ及び沖繩からのM. kraepelini Attems (1907 Mitt. Nat. Mus. Hambrug, xxiv, p. 99, Acta Arachnologica, v. vii, nos. 3/4, p. 122) であり、その2は南アフリカ產の M. schult-

zei Attems (1909 L., Schultze's Forsch. Reise, p. 36) であり、その3は西オーストラリアからの M. mjöbergi Verhoeff (1924 Ark. Zool. xvi, no. 5, p. 38) であつてともに舊世界の熱帶又は亞熱帶にかぎられたものであつた。それでここに我が日本の四國及び本州から第4の種を得たことは本屬の分布からも注目に値するものであることは否定出來ない。

Monographis takakuwai n. sp.
和名 **ハイボクフサヤスデ** (Fig. I, II)

大さ：成體では尾毛叢 (Fig. I, 1, sp) を除いて體長約4mm. 體幅1mm. アルコール漬標品はかなり伸長してゐる。

體色：頭部及び背板の地色は淡黄。後頭緣、頭側緣及び兩眼群の後方背面正中に向つて突出してゐる半島狀の區域はともに暗褐色 (Fig. I, 2)、又第2から第9に至る各背板ではその兩側にある背部剛毛小堆 (Fig. I, 1, dB) の前方に暗褐の色素をたくはへるため肉眼では恰も前後に走る黑條の如く見える。各體節の側板、腹板は步肢とともに背板に比して淡色である。體の各部の有齒剛毛の色は淡褐又は白色。尾毛叢の色は白色。アルコール漬標品は大いに脫色してゐる。

頭部：幅は長さより大で略卵形。前緣は正中がやや凹む。兩眼群はそれぞれ8個の單眼 (Fig. I, 2, Oc) からなり背側から腹側へ3, 3, 2と3列をなして竝んでゐるが背面からその全部を見ることは出來ない。各單眼は半球狀に膨出してゐて多く茶褐色をしてゐる。左右眼群の前背側に接して3個の特殊な感覺器官があつて各1本の長い剛毛を具へ白色に見えてゐる (Fig. I, 2, sB)。頭部の有齒剛毛は大略前後の2區に群生してゐる、即ちその前方のものは頭の前緣を被ふ區域であつてそれは更に左右の2區に分れ兩區の有齒剛毛はそれぞれ左右外方へ彎曲して生じてゐる。この2區は正中線で接してゐてその間の無剛毛の野は狹小である。後方の有齒剛毛區は前者との間に無毛の野をはさんで兩眼群前背部に細長く發達する、そして正中にやや廣い無毛の野をはさんでこれ又左右の2

區に分たれてゐる。

觸角：8節から成り第5第6節の基部には僞節がある。第1及び第6節が最大。第6及び第7節を注意深く觀察するとその先端肩部に透明な小棘がありそれは第6節に3(4),第7節に2(3)であることを發見する。第8節は最小でその先端部に4個の感覺棘がある(Fig. II, 5)。各節全面に無色の微毛をもつ微小孔が無數に存在してゐる。尙かうした微小孔は頭部の殆ど全面に更に全胴體に及んでゐて外肢に於いても著しい。

上唇：中央において凹みそこに齒狀突起はない。

大顎：には2の部分が區別出來る。その1つは齒列と櫛葉とをもつ部で(Fig. I, 3)齒列は4列の齒から成り各列の齒の太さと數とは各個體で常に同じではない。櫛葉は20乃至28から成り各列は又多くの櫛齒をもつ。櫛齒の太さは端に至るにしたがつて小となり、その數は端に至るにしたがつて多くなるが最端部では再び少くなつてゐる。第2の部は摩擦板を成しそこには8列前後の鋸齒狀突起ある膜狀物が見られる。

胴節：11節。第1胴節は小形、その背板即ち頸板(Fig. I, 2, H)は小半月形をなし、その後方から第10胴節に至る各背板と同樣に兩側の背部剛毛小堆には多數の有齒剛毛(Fig. I, 4)を放射狀に生じてゐる。各背板の背部剛毛小堆の間にも若干の有齒剛毛を生ずることがあるけれども別に各背板の後緣に正しく列生する後緣有齒剛毛列がある。第1胴節には側板の剛毛小堆はないけれども體側が頭部に接する境に頭部の方へ傾いてならぶ有齒剛毛列(Fig. I, 2, B)があるがこれは側板剛毛小堆に關連をもつものであらう。第2胴節から第10胴節に至る各側板に發達する側板剛毛小堆は後方の胴節へ行くにしたがつて多少隆起の度を增し且そこに生ずる剛毛の長さは背部剛毛小堆のそれより長く又體の後部のものは前部のものより長い。第11胴節の後端には尾毛叢がある。尾毛叢は2様の毛より成り、1は白色でその大部分を占めてゐるもので細長く全面に齒狀突

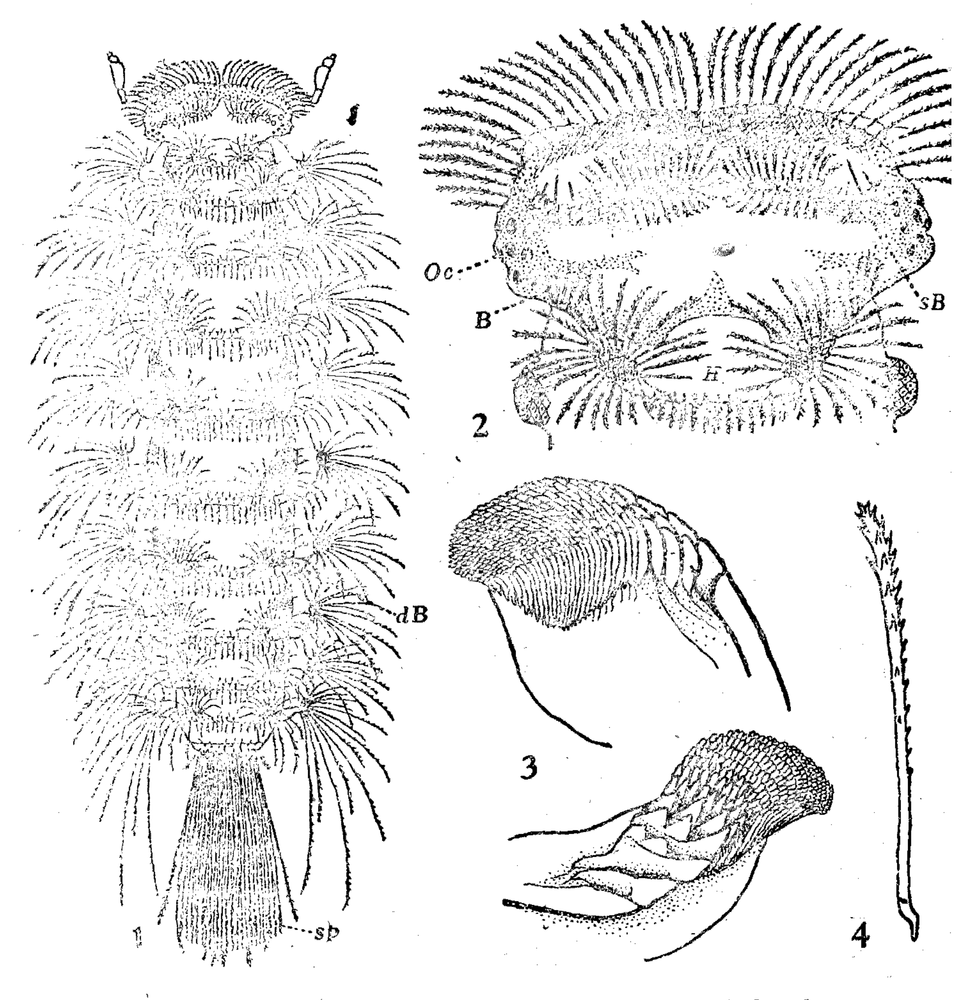


Fig. I. 1. M. takakuwai n. sp., vom Rücken gesehen; dB. dorsale Borstenhaufen, sp. Schwanzpinsel, 2. Vorderende des Körpers, von oben; Oc. Ocellen, sB. Sinnesorgan neden dem Auge, B. Borstenreihe zwischen Kopf und vorderstem Pleurit, 3. Mandibel, 4. Borste aus dem Borstenhaufen.

Fig. I. 1. M. takakuwai n. sp. の背面; dB. 背部剛毛小堆, sp. 尾毛叢, 2. 體の前端背面; Oc. 單眼群, sB. 眼の前背部にある特殊感覺器官, B. 頭部と最前側板との間にある剛毛列, 3. 大顎, 4. 剛毛小堆からとつた剛毛.

起を具へ先端部の1側には3—4個（稀に2個）の逆鉤を有し（Fig. II, 7)、その2は淡褐色で體の各部に生ずる有齒剛毛と同形にして長大なものである。この剛毛は前者より長く且つ數少く毛叢の腹側に遍在してゐるが又その周邊にも見られる。尙尾毛叢の基部背面にも長短混生の剛毛列あり。各部の有齒剛毛は多くは彎曲しその外側には內側より多くの齒狀突起を有する特殊な形態のものである。第10胴節には腹面に2枚の大形の肛門板が左右から接しその間に肛門が開いてゐる。

歩肢：第1胴節の外肢は大いに退化してゐて歩肢の用をなさずその球狀の基部及び肢狀突起部にはともに多くの棘を生じ採餌觸感の用に應じてゐる（Fig II, 6)。第2第3第4胴節には各1對の歩肢を有し、第5から第9胴節に至る各胴節にはそれぞれ2對の歩肢ありて計13對となる。第3より第13に至る各歩肢は各8節からなり、第1歩肢ではその第2第7節を缺くので6節，第2歩肢ではその第2節を缺くので7節から成立つてゐる。これら各歩肢の所定の節には特殊な感覺棘毛(Fig. II, 8, Tb) が生じてゐてその分布の狀況は次の如くである。

第 1 歩肢……1, 1, 1, 1, 1, 0
第 2 歩肢……4—6, 1, 1—3, 1, 1, 0, 0
第3—13歩肢……3—5, 0, 1, 1—2, 1, 1, 0, 0

各歩肢最先端節の內側中央部にはアムプレ型の棘が、第2から第13歩肢の最先端から2番目の節の先端には極小な棘がそれぞれ見られる。各歩肢最先端節には主爪とその腹側に向合つて生ずる剛棘及び附着囊とがある (Fig. II, 9)。第2歩肢の基部には後方へ突出する卵形の生殖突起があつて雌雄略同形その先端に生殖門がありその附近には若干の棘を生じてゐる(Fig. II, 8, G)。春期15個の卵を有する1個體を見た。尙第8第9歩肢の基節に基節腺があることが見られる(Fig. II, 10)

同屬の他種から區別される重要な標徵：

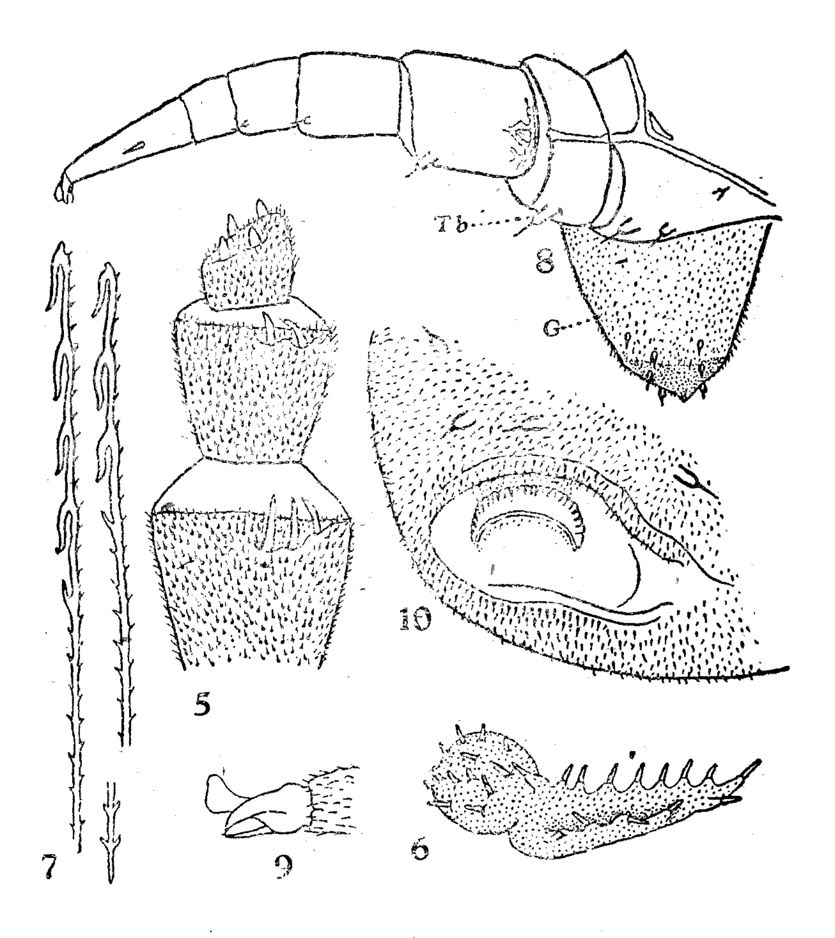


Fig. Ⅱ. 5. Endgliedereiner Antenne, 6. Rüdimentäres I. Beinpaar des I. Segments, 7. Borsten aus dem Schwanzpinsel, 8. 2. Laufbein; Tb. Tasterborste, G. Geschlechtsorgan, 9. Kralle, 10. Coxaldrüse des 8. Laufbeinpaares.

Fig. Ⅱ. 5. 觸角の末端部, 6. 第1胴節の退化した外肢, 7. 尾毛叢の中からとつだ逆鉤ある剛毛, 8. 第2步肢, Tb. 感覺棘毛, G. 生殖器官, 9. 步肢端の爪, 10. 第8步肢の基節腺.

1)觸角の第6第7節の肩部にそれぞれ3(4), 2(3)の無色の棘ありその他には棘毛なきこと。

2)各步肢基節の感覺棘毛の數比較的多く第2步肢の第3節、第3から第13步肢の第4節の感覺棘毛の少いこと。

3)尾毛叢中にある毛の逆鉤數が多いこと。

Attems氏はこの逆鉤數を大いに重要視してゐて、たとへば Handbuch der Zoologie, vierter Band, p. 113 には次の如く記してゐる。

○Tergite mit 2 Borstenfeldern (jederseits eines) und einer oder mehreren Querreihen von Borsten längs des Hinterrandes. Widerhakenborsten des Schwanzpinsels mit 2 Widerhaken.……………………………………Monographis Attems

○Tergite mit 4 Borstenfeldern (jederseits 2) und einer Borstenreihe am Hinterande. Widerhakenborsten des Schwanzpinsels mit 4 Widerhaken. ……………………………………………………………………………… Ankistroxenus Attems

即ち逆鉤數をもつて屬の標徵とさへしてゐるのであるが日本產のものは1個體にして2, 3, 4 又は 3, 4, 5 の逆鉤數を有するものであつてこれ等の數は何等屬の重要標徵にはならない。

產地：愛媛縣西宇和郡三瓶町。神奈川縣江ノ島。

本動物の種名は高桑良興博士に献じたものであり、和名は高島春雄氏に從つたものである。

(附記) 三瓶產と江ノ島產との比較

この兩者は重要な種的標徵に於いて別種と認めることは出來ないけれども下記の種々な點で直に區別出來る程の相異を示すのでこれを地方的變異による2つの型と認めることは出來る。それで必要ならば江ノ島產のものを三瓶產のものから區別され得る地理的品種としてそれに對して **Monographis takakuwai nigricans** n. subsp. の新亞種名を用ひることとする

	三　瓶　産 M. takakuwai takakuwai	江　ノ　島　産 M. t. nigricans
a. 體　長	4—4.5mm.	3—3.5mm.
b. 頭部背面	淡黃褐	前者よりはるかに黑褐
c. 背板兩側の黑條	江ノ島産より淡い	前者よりはるかに黑褐
d. 各部の有齒剛毛	江ノ島産より長くて彎曲する	短くて前者のもの程彎曲しない
e. 尾毛叢中の毛の逆鉤數	3—4（稀に2）	3—6（5多し，稀に6）
f. 步肢基節の感覺棘毛數	江ノ島産よりやゝ少數	前者よりやゝ多數